

順雲山 光照院 普仙寺

普仙寺だより

発行
浄土宗
順雲山
光照院
普仙寺
第307号
令和4年
3月8日



本堂西側に涅槃図を掛け、お釈迦様のお涅槃をお参りします。

普仙寺諸行事 のご連絡

◎ 毎週土曜日
★ 土曜礼拝

まん延防止等重点措置が
解除され次第、感染防止
対策をして行います。

◎ 三月二十一日 月・祝
★ 春彼岸法要

住職と副住職で勤めま
参拝不要です。
- 塔婆は二十二日以降
取りに来て下さい。

★ 春の茶会
中止します。

★ 牟呂お堂巡り
中止します。

◎ 四月八日 (金)
★ 月並法要・中止します。



去る二月十九日、普仙寺

帰敬式

副住職加藤良全の夫人加藤愛さんが、帰敬式を受けました。

令和4年2月19日普仙寺本堂での帰敬式



帰敬式とは、仏教の信者

帰敬式

となり、仏様を敬い生きて行くことを誓約する儀式です。当日はご両親も同席されました。

令和4年2月19日普仙寺本堂での帰敬式
普仙寺副住職夫人加藤愛さんご両親

住職の短歌

令和3年に詠んだ短歌の
続き 前回は令和3年10
月号)を掲載します。

一斉に白い花咲く沈丁花空
いっぱい星の如くに

梅見頃白く清楚な花見れば
多感な頃の思い湧き出る

枝折戸の隣に咲いた花杏君
が夢見た春の風景

男坂登り途中の紅椿帯刀人
も眺めていたか

雪柳その一輪が咲いている
五弁の花の色は純白

満開の白い小花の沈丁花甘
い香りに心は躍る

待っていた丸く優しい木瓜
の花この嬉しさを君に言
いたい

四本の白い雄蕊の富貴草弥
生三月春になったね

男坂登りきったその前に一
重絞りの椿一輪

透き通る黄色花房土佐水木
春の初めの嬉しい姿

賑やかに紅梅咲いた寺の庭
君と僕とが賞でる粹人

鈴の小さな花が咲いている
膝を屈めて暫し鑑賞

三月の霞の中の伊吹山まだ
現れず春の姿は

滝水の飛沫が降りてくるよ
うに枝垂桜の花びら開く

寄り添ってヒソヒソ話して
いるよ黄色水仙ティタテ
イタの花

桃色の乙女椿が咲いている
好きと言った千重の花び
ら

山亭に白い馬酔木の花開く
遙かに見える京都西山

春空に飛び立つように花咲
かす白木蓮を君と見ていた

その蕾はちすの如き紫木蓮
開花の時を待ちて佇む

北門の老樹の桜花開く心も
開く春の到来

桜咲く彼岸の入りの阿弥陀
堂訪う人の顔も綻ぶ

庭先に一際赤い木瓜の花彼
岸中日寺の参道

唐門の枝垂桜が花開く春の
日差しにいよよ賑わう

華頂幼稚園卒園式

椅子席に可愛く座る卒園児
声張り上げて園歌を歌う

イギリスの大王の名の水仙
が威儀を正して正面凝視

春彼岸権現堂の桜咲く間近
に見んと石段登る

住蓮の馬淵の町を望み見る
祖師の直弟子終焉の場所

大殿の見えるところの老木
の桜の花が今年も咲いた

寄進者の夫婦の名前合わせ
持つ美幸桜は愛の表象

きりりと

3	2	1	先祖代々または戒名 塔婆料一壺三千五百円)	住所 (町内名でも可)	施主氏名

令和四年春彼岸会 塔婆申込用紙
 注意 本堂内の申込箱へ入れるか、または郵送)
 塔婆回向を希望する方のみお申込下さい。
 封筒読み上げ回向の方は、彼岸回向封筒を
 お使い下さい。

きりりと

<p>☆ 毎週土曜日 朝八時三十分～九時 どようらいはい 土曜礼拝 まん延防止等重点措置が 解除され次第、感染防止 対策をして行います</p> <p>☆ 三月二十一日 月・祝) はるひがんえ 春彼岸云 住職と副住職とで勤めま す。参拝不要です。 檀信徒各家のご回向を致 します。 ご回向の方法に二種類あ りますので、どちらかひ とつをお選び下さい。</p> <p>① 封筒読み上げ回向 彼岸回向封筒に記入され た先祖代々名または戒名</p>	<p>寺行事案内</p> <p>を読み上げて、ご回向し ます。回向料はお気持ち です。</p> <p>② 塔婆回向 先祖代々名または戒名の 塔婆にてご回向します。 上記の申込用紙にて事前 にお申込下さい。回向料 は一壺三千五百円です。 塔婆は二十一日以降 取りに来て下さい。</p> <p>☆ 三月二十一日 月・祝) 春の茶会云 中止します。</p> <p>普仙寺だより「三〇七号 発行日 令和四年三月八日 発行所 普仙寺 発行者 加藤良光 〒四四一、八〇九三 豊橋市牟呂中村町六一五 電話 〇五三二、三一、七四五七</p>
--	--